



## 新学習指導要領にみる博物館の学び

岐阜大学教育学部 今井 亜湖

「主体的・対話的で深い学びの実現」をキーワードに、平成29年3月に幼稚園、小・中学校、平成30年3月に高等学校の学習指導要領の改訂が行われた。主体的・対話的で深い学びの「主体的な学び」は、学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び、「対話的な学び」は、子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び、「深い学び」とは、習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学びである<sup>1</sup>。これら3つの学びの視点に立った授業改善を進めるための配慮事項の中に「博物館」という言葉が出てくる。「(7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。」(平成29年告示 小学校学習指導要領「第1章 総則」(23頁)より、下線は著者が加筆)である。

新学習指導要領で想定されている博物館の教育利用は、博物館の資料に触れるだけでなく、博物館が収集・保管・展示している各種資

料から子どもたちが情報を収集する学習活動を充実させることである。学校教育における博物館利用は、平成10年の総合的な学習の時間の新設以来、様々な実践が数多く報告されている。博物館の取り組みとしては、学芸員による出前授業、展示の貸出、展示と学習指導要領との関連を可視化する事業などがあげられる。これらの取り組みの多くは、「博物館とはどのようなところなのか?」「博物館にはどのような展示があるのか?」といった博物館や展示を知ることの重きが置かれていたのではないだろうか。上述のとおり、新学習指導要領では博物館の資料から情報を収集する学習活動に重点が置かれている。これは、「資料からどのように情報収集するのか?」「学校で学んだ知識を基に博物館資料をどう見ると面白いのか?」など、展示や資料からの情報収集の方法を子どもたちに学ばせることが重要になる。こうした内容を指導することは、博物館学芸員養成課程を修めた教員であれば容易ではあるが、それ以外の博物館教育を学んでいない教員にとっては難しいだろう。新学習指導要領において、子どもたちが博物館での学びを享受できるようにするためには、博物館の役割は今後重要になってくると思われる。

<sup>1</sup> [出典] 文部科学省「主体的・対話的で深い学びの実現(「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善)について(イメージ)」[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/10/24/](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/10/24/)

1397727\_001.pdf (2019.3.8参照)

## 第66回 全国博物館大会に参加して

期 日：平成30年11月28日～30日  
会 場：東京都台東区 東京文化会館ほか

本年度の第66回全国博物館大会は、日本博物館協会創立90周年の記念大会として、また、来年度9月に開催される国際博物館会議（ICOM）京都大会のプレ大会として、東京「上野の森」の東京文化会館を主会場に6つの文化施設において、「博物館からつながる」を大会テーマに、約750名が参加して盛大に開催されました。

初日の記念トークでは、作家の三浦しをんさんが自著の『ぐるぐる博物館』を紹介しながら、なにかを愛して探究した学芸員の不思議がいっぱい詰まっているのが博物館、だから私は博物館が大好きとご自身のエピソードを交えて講演をされました。また、午後からの全国博物館フォーラムでは、「ICOM京都大会最新情報」、「これからの科学系博物館」、「新・文化庁のこれから」について報告がなされました。

2日目は、例年の倍となる6つの分科会が開催され、分科会6の「ウェルカム ミュージアム！観光からつながる」では、東京国立近代美術館が東京メトロとの連携で実施した「7つの謎解きミステリーラリー」、上野観光連盟が実施した上野の森の文化施設共通入場券「上野ウェルカムパスポート」の取組みと交通事業者・地元商店街との連携への展開など、地元に関わった文化施設の可能性について、各地域の博物館にとっても大変参考になる報告が5つの団体からあり、午後からは各分科会の総括がなされました。

最終日には、東京国立博物館の文化財用X線CT装置の見学、世界遺産に登録された国立西洋美術館本館の建築概要の説明など5つのコースに分かれて「上野の森」を中心とする文化施設の視察がありました。なお、次回の全国博物館大会は、ICOM京都大会が開催される京都市において9月5日に開催される予定です。

(岐阜県博物館 小野精三)



## 平成30年度 岐阜県博物館協会 岐阜地域ブロック部会 事業報告

岐阜地域ブロック部会では、7月に世話人より加盟館23館（当時：現24館）へ、旧年度の部会活動を報告するとともに本年度の活動計画を立てるための集まりを呼びかけたところ、6館7名が集い、7月20日（土）に第1回会合を持ちました。会の趣旨確認や各館の状況報告、今後の部会の進め方などについて、活発に意見が交わされました。

11月10日（日）の第2回活動では、富樫幸一氏（岐阜大学教授）、山本真一氏（岐阜市歴史博物館分館 加藤栄三・東一記念美術館長）のお二人による「街中散策会 歴史とアートの語り部直接対決！岐阜まちなかトークバトル」を開催しました。柳ヶ瀬から美殿町の通りを、様々なアート作品や、信長の時代の町並みについての解説を聞きながら、そして互いに語りながら歩く、楽しい一時でした。

こちらは「長良川おんぱく2018秋」にエントリーして開催したことにより、一般の方に向けた効果的な広報を実施できたと思います。

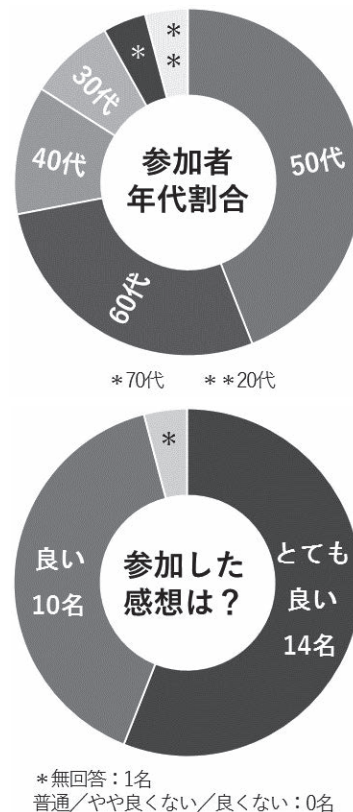


図1. 「岐阜まちなかトークバトル」参加者の年代別割合（上）、参加した感想とその割合（下）

また、長良川おんぱく事務局が実施したアンケートと感想の記述から、参加した多くの方にご満足いただけたことを伺い知ることができません（図1）。

そして、アンケートの自由記述を共起ネットワークでより客観的に見てみると、参加者は本イベントに対して次のような感想を持って下さったことが判りました（図2）：

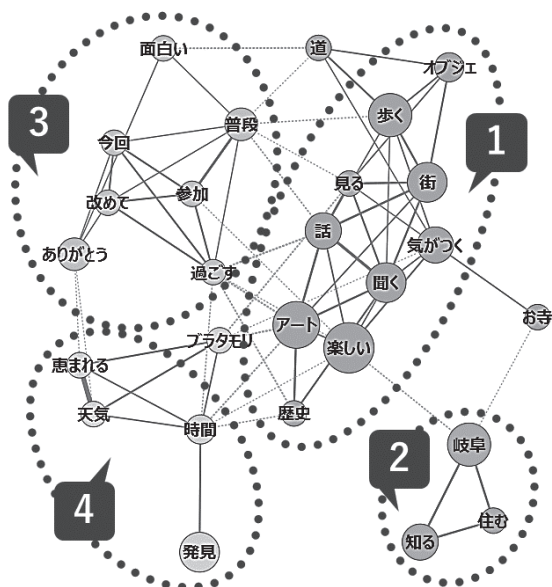


図2. アンケートの自由記述「岐阜まちなかトークバトルの感想」共起ネットワーク解析。用語の丸サイズは記述頻度、線の太さは共起の度合いを示す。

1. 【聞く・見る・歩く楽しさ】  
アートと歴史の話聞いて楽しかった。  
街を歩いていろんなことに気がついた。
2. 【岐阜を知る】  
自分の住む岐阜を知ることができた。
3. 【普段とは違う面白さ】  
参加して普段は気付かない発見があった。  
今回、改めて街の面白さに気付いた。
4. 【多くを発見し、ひたる時間】  
お天気にも恵まれ、アートや歴史にひたる楽しい時間だった。

講師の方々とともに、来年度も同じ街中でも視点を変えた切り口で見て歩くイベントを計画していきたいと思っています。

第3回活動として、12月15日（日）に内藤記念くすり博物館での施設見学会「ほっこり&スイーツにおくすりまなぼう会」を開催しました。好評につき、部会員及び一般の方に定員満員30名のご参加をいただきました。



写真. 講演会（上）、展示室学芸員解説ツアー（下）

館長の森田宏氏による菓の歴史についてのご講演、企画展の学芸員解説ツアーに加えて、担当者による植物園・温室の見学と、非常に充実した内容で、懇談会では「菓草園や展示解説で学芸員の話聞いたことが良かった」、「館長さんの講話で菓についてより興味を持った」とのご感想や、日頃から本館に良く来ておられる‘常連さん’からも「いつも来ているけど、今日は新たな発見があって楽しかった」とのご好評をいただきました。

今後も、‘博物館の楽しさ&岐阜の良さ’を、より多くの方々と共感できるような活動を続けて行きたいと思っています。

世話人：岐阜大学教育学部 須山知香

## 第95回研修会 小規模館の強み

期 日：平成30年10月30日（火）  
会 場：下呂ふるさと歴史記念館  
参加者：17名

当初9月5日に飛騨市で予定されていた研修会でしたが、台風の影響で延期となり、10月30日に改めて下呂市で開催する運びとなりました。

第95回研修会のテーマは「小規模館の強み」。参加者は4つのグループに分かれ、事前に配布されたアンケートの結果をもとに意見交換を行いました。一口に博物館関係者といっても立場は様々、違う視点からの発言に触れることで、自館だけでは見えなかった強みや課題にも気づくことが出来たかと思います。また、コーディネーターである美濃加茂市民ミュージアム館長可児光生氏より、小規模館の強みを活かす上で、自分の館を「見直す」、やりたいことは全て出来ない「割り切る」、同じような小規模館で集まって「話をする」という重要な3つのキーワードを、10月19日に行われた東海三県博物館協会研究交流会の内容も絡めてお話いただきました。

意見交換会終了後は、研修会の会場でもあった下呂ふるさと歴史記念館と下呂市の温泉街に位置する下呂発温泉博物館の見学も行いました。どちらも今回のテーマである小規模館であり、下呂市の歴史や産業に関わりの深い博物館です。現地では博物館の展示内容や施設の説明を受けました。

この研修会をきっかけとして、また博物館関係者同士が「話をする」機会が増えることを願います。

（下呂市教育委員会 進藤久実）



## 152回公開講座 「学芸員と巡る！木曾街道 六十九次の世界（恵那編）」

期 日：平成30年9月24日（月・祝）  
会 場：ひし屋資料館・甚平坂・中山道広重美術館  
講 師：中村香織（中山道広重美術館）  
参加者：20名

東濃ブロックに該当する中津川市～瑞浪市にはかつての中山道の宿場町があったことになみ、本講座は中山道をテーマに開催。今回は中山道46番目の宿場・大井宿があった恵那市で、中山道歩きと資料館、美術館の見学を行いました。

当日は悪天候の予報に反して天気恵まれ、協会員や一般の方々約20名にご参加いただきました。午前9時30分に中山道広重美術館に集合し、最初に向かったのは江戸時代の有力商家の生活の様子を知ることができるひし屋資料館。ここでは実際に畳の上へ上がって調度品などを間近で見ることが出来るほか、部屋を歩き来して当時の間取りを確かめることもできます。次に、浮世絵師・歌川広重が中山道を題材に手掛けた錦絵揃物《木曾海道六拾九次之内》「大井」に描かれた場所とされる甚平坂に向かいました。ここではパネルを使って実際に作品を見ながら、作品と実景の違いについての検討をしました。最後に中山道広重美術館で《木曾海道六拾九次之内》を鑑賞。本揃物は1835年から数年に渡って刊行されたもので、溪斎英泉と歌川広重、二人の浮世絵師の手になる作品です。日本橋から大津までの69宿を描いた全71図の大作。世界的にも評価の高い揃物を一挙展覧する年に一度の機会であり、彫り・摺りの技巧や摺り違い（同じ作品でも時期によって使用する色や摺の技法が異なっている場合がある）についても鑑賞しました。

中山道は一般の方にも比較的親しみやすいテーマであり、東濃ブロックでは今後も地域の博物館・美術館が地域のリソースを活用した公開講座を継続して開催していきたいと考えています。

（中山道広重美術館 中村香織）



## 第153回公開講座 篠田桃紅芸術月間2019墨痕 月の光 学芸員によるギャラリートーク

期 日：平成31年1月19日（土）  
会 場：岐阜現代美術館  
講 師：宮崎香里（岐阜現代美術館学芸員）  
参加者：15名

今回の公開講座は、関市の、岐阜現代美術館で開催中の「篠田桃紅芸術月間2019墨痕 月の光」展の学芸員によるギャラリートークをうかがう形で行われました。

定刻10時より、宮崎香里学芸員のギャラリートークが始まりました。まず、今回の企画が岐阜現代美術館と関市立篠田桃紅美術空間の協同企画「篠田桃紅芸術月間」の13回目であることや、今回の展示の狙いなど概要の説明がありました。

そして、23点の展示品の中から6点ほどを選び出し、それら個別の作品解説をする中で、桃紅の創作活動の大きな流れを示されました。特に、書家として始まった創作の中で、いかに文字の抽象化を進めていったか。漢字の元となった象形文字、現代表記、桃紅による抽象化された文字（というより図象）を対比させた宮崎学芸員手作りのスケッチブックを用いた解説は、門外漢にも分かり易いものでした。

宮崎学芸員によれば、今回の参加者の半数は館のリピーター、残りはどこかで公開講座の情報に触れた方ではないかとのこと。会員は2名だけで、皆さん多忙なのは重々承知していますが、さらなる参加を期待します。

（個人会員 斎藤基生）



## 第154回 公開講座 「モノ」を集めるということ」

期 日：平成31年1月26日（土）  
会 場：みのかも文化の森  
講 師：糸魚川淳二（半原版画館館長）  
参加者：25名

本講座は、美濃加茂市民ミュージアムの企画展「版画史と「私」」に伴い、同館と中濃ブロック部会が連携して開催したものです。

講師の糸魚川淳二先生は、長年砂目石版画などを収集され、私設博物館・半原版画館を開設した経験をもとに、自らの収集品を用いながら、以下のように私見を述べられました。



- ・博物館は人・物・建物が重要な要素であるが、優れたコレクションを有する個人も多い。むしろ人はみな収集家と言ってもよい。久保貞次郎の言葉を借りれば「3点持てばコレクター」である。
- ・モノを収集には、探す・見つける・買う・見せる・整理する・調べるなどの面白さ、魅力がある。集めたモノには愛着もある。
- ・個人コレクションは、最終的には博物館に寄附してもらおうのが望ましいが、愛着のあるコレクションを寄附してもらうには、寄附したいと思わせる博物館でなければならない。そのためには日頃の活動が重要である。
- ・現在開催している企画展「版画史と「私」」は、作家や収集家からの寄贈コレクションがベースの展覧会であり、理想的な形のひとつである。これは日頃の博物館活動が評価された結果である。

そして最後に、モノを集める人たちに向け、以下のメッセージを語られました。

- ・たくさんのモノを見て、目を養ってほしい
  - ・こまめに展覧会などへ足を運んでほしい
  - ・モノや人との出会いを大切にしてほしい
  - ・若い作家に注目してほしい
  - ・自分の感性を信じ、収集を楽しんでほしい
- 自らの仕事や博物館の活動を改めて見直す必要があると、強く感じた講座でした。

（瑞浪市陶磁資料館 砂田普司）

## 第43回 東海三県博物館協会交流会

期 日：平成30年10月19日（金）  
会 場：飛騨高山まちの博物館  
参加者：50名（内岐阜県、34名）

今年度は「ミュージアムレスキュー」と「小規模館の活動」という2つのテーマを設定しました。各テーマについて3県から発表があり、その後討議が行われました。

### テーマ1

「ミュージアムレスキューの現状と今後」

東日本大震災を契機に、ミュージアムレスキューに対する意識が高まり、各地で体制作りが進められています。まず、災害時の情報収集体制について、愛知県では8つの地域ブロックを設定して情報を取りまとめていること、三重県ではみえ歴史ネットの構築と、三重県総合博物館のハブ化を進めているという発表がなされました。岐阜県は7月豪雨で被災した資料のレスキュー活動について報告しました。実施に当たって一番の課題は物資と負担でありましたが、関市文化財保護センターによる設備などの支援と博物館協会もの部会を中心とするボランティアで行った旨が報告されました。

### テーマ2

「小規模館だからこそできる取り組み」

小規模館の活動について、地域の博物館が市町村合併による市域の拡大によりどう変わったか対照的な報告がなされました。飛騨みやがわ考古民俗館では旧宮川村をターゲットとし、鳳来寺山自然科学博物館では拡大した新城市全体を対象とした友の会活動を充実させています。一方、松阪市立歴史民俗資料館は県外からの入館者が8割を超えており、地域内外から訪れる来館者に対し、松阪城を紹介する活動を行っています。

今回は、3県の取り組みに加えて外部からの視点による発表を盛り込み、高田みちよ氏（小規模ミュージアムネットワーク事務局、高槻市自然博物館あくあびあ芥川主任学芸員）を招いて小規模ミュージアムネットワークの活動について報告いただきました。当会では年1回、「小さいとこサミット」をさまざまな館が持ち回りで開催し、開催館が設定する課題について討議が行われています。各館が抱える課題は地域の特性と深く関わり、さまざまであることが

うかがわれました。また、小規模館は予算・設備の問題を抱えるものの、小回りが利き、地域と関わった活動ができる利点もあります。この会も、組織として参加することが難しい場合は学芸員が個人として参加するなど、動きやすさ、自由さを確保しています。これからの小規模館をふくめた全国的な動向や、博物館活動の原点について考えさせられる興味深い発表でありました。

（岐阜県博物館 長屋幸二）

## 博物館協会 インフォメーション

### ホームページと研究会の案内

こと部会では、岐阜県博物館協会のホームページを使いやすく充実したものとするために取り組んでいます。協会活動の情報や館情情報など、協会員や協会員以外の人たちに対して情報発信の場であることはもちろん、機関紙バックナンバーのpdf化など活動のアーカイブも進めています。今後は会員専用のページや、協会のコンセプトを示すページなども作成していく予定です。スマホにも対応していますので、ぜひご覧ください。

こと部会では、棚橋源太郎の業績について研究を進めていきたいと考えています。関心のある方は、こと部会までご連絡ください。

### 編集後記

平成31年2月11日（月・祝）、美濃加茂市民ミュージアムにおいて、「学習指導要領改訂によって博物館と展示はどう変わる」と題した研究会を日本展示学会などとの共催で行いました。定員40名のところ64名の参加があり、県外からの参加者も多くありました。新指導要領では情報収集能力の育成が重視されており、そのために博物館・美術館に何ができるか役割を見直す必要性が示されました。ただ読んでいるだけでは見落としてしまう変化について確認することができました。研究会の講師を務めていただいた今井先生より賜った玉稿を巻頭記事といたしました。

編集：岐阜県博物館協会「こと部会」  
発行：岐阜県博物館協会  
事務局：〒501-3941  
関市小屋名1989（岐阜県博物館内）  
（電話）0575-28-3111  
（FAX）0575-28-3110  
（URL）<http://www.gifu-museum.jp/>